

市民研究員・地域課題解決型研究の活動報告

よりよいまちづくり(「ふくし社会」の構築)に寄与することを目的に、連携自治体である美浜町、半田市、東海市、知多市の地域課題に関わる研究テーマを設定し、課題解決に貢献できる可能性をもつ調査や研究を行う「市民研究員制度」と「地域課題解決型研究支援制度」を2015年度に創設し、地域と大学の相互交流による研究活動を促進しています。

※2016年7月に知多市と包括連携協定を締結したことを機に、2017年度より知多市にも対象地域を拡大

市民研究員制度	地域課題解決型研究支援
「COC事業」の一環として、住民の視点から具体的な地域課題を明らかにし、その解決の道筋を探求する調査や研究に対して支援を行う「市民研究員制度」を2015年度に創設しました。よりよいまちづくり(ふくし社会の構築)に寄与することを目的に、美浜町、半田市、東海市、知多市の地域課題に関わる研究テーマを設定し、課題解決に貢献できる可能性をもつ調査や研究に積極的に取り組んでいます。	COC事業の連携自治体(美浜町、半田市、東海市、知多市)の課題解決に向けた研究や、地域への「ふくし」の展開に係る本学教員の研究を支援する制度です。研究者の視点で地域課題を捉え、それぞれの専門性と本学のシーズを最大限に活かして研究を行うことで、各地域の課題の解決に繋がります。その成果は地域にも還元していきます。

市民研究員 研究概要一覧

2015～2017年度(※敬称略)

代表者		調査・活動テーマ	対象地区
2015年度 採択:4件	森 洋司	知多地域におけるCSV経営のビジネスモデルの提案	東海市を含む知多地域
	大 崎 暁美	他市町から学ぶ“ファミリー・サポート・センター事業のあり方”について	ファミリーサポートを実施している知多半島の市町とファミリーサポートが十分活用されている市町
	金森 大席	知多半島の多様な地域資源をつなげ、地域課題に向き合う人材育成のプログラムを作る	知多半島全域
	鈴木 雅貴	子育て世代をターゲットとした地域活性化	半田市中心市街地
2016年度 採択:4件	櫻井 雅美	子育て支援サービス有効利用のためのコーディネートについて	美浜町を中心とした知多半島全域
	加勢田 茂	若い人に食・栄養の重要性を理解してもらうための提言	知多半島全域
	成田 一郎	亀崎の旧家における歴史文化遺産の調査研究と地域活性化	半田市亀崎地区
	芳金 秀展	半田市における中心市街地観光の大ナゴヤ大学的アプローチ	半田市
2017年度 採択:7件	片山 麻有	子どもの多様性を大切にできる地域づくり	知多市
	赤坂 雪江	『古今半田衆』巻第一 半田停車場前	JR半田駅周辺
	溝口 昭弘	訪問型の支え合い活動と身近な地域拠点のあり方について	半田市亀崎中学校区
	杉山 直生	「収穫体験・調理実習」を基盤とした、シニア世代と子育て世代のマッチング	美浜町
	坂元 美香	中心市街地における世代間交流について	知多半田駅周辺およびJR半田駅周辺
	日比野 徳男	関係団体が協働して地域回想法を用いた多世代交流で地域の文化を伝承することにより、地域の人々が生き生きと暮らせるまちを創り出すための調査・研究	知多市
	後藤 文枝	東海市の重症心身障がい児の自立支援について、あるべきまちの将来像を、当事者や支援者とともに考える。	東海市全域

地域課題解決型研究 研究概要一覧

2015～2017年度

代表者		所属(学部)	調査・活動テーマ	対象地区
2015年度 採択:3件	渡邊 忍	社会福祉	ファミリーホーム(小規模住居型児童養育事業)の地域支援に関する研究	ファミリーホームが存在する美浜町、東海市、常滑市、大府市
	児玉 善郎	社会福祉	住民・大学・行政の協働による空き家を活用した地域福祉活動に関する実践的研究 -高齢者支え合い、子育て支援、防災・減災の活動を通して-	美浜町
	佐藤 慎一	全学教育センター	ICT活用による教員と地域住民とともに作り上げる国際交流 -グローバルな東海型都市づくりプランの構築-	東海市
2016年度 採択:8件	坂口 大史	健康科学	半田市「アイブラザ半田」の地域活性化に向けた利活用に関する研究	半田市
	吉田 直美	経済	美浜町布土学区を中心とした地域防災活動を普及するための取り組み -災害時要援護者の避難問題に焦点を当てて-	美浜町布土学区
	千頭 聡	国際福祉開発	知多半島のNPOが有する社会的な価値に関する研究 part-1 -NPOスタッフの意識と活動実態に関する調査を通じて-	美浜町・半田市・東海市を含む知多半島5市5町
	水谷 聖子	看護	半田市における子どもの貧困対策と居場所づくり -地域におけるさまざまな子どもの居場所のあり方-	半田市
	梅本 充子	看護	半田市におけるグループ回想法を用いた介護予防と自主活動形成への支援 -アクティビティとしての回想法-	半田市
	新美 綾子	看護	東海市における災害に強い街づくりに向けた支援 -潜在看護師のマンパワーを活用した災害支援共助システムの構築-	東海市
	山本 克彦	福祉経営	美浜町における災害にも強いまちづくりに向けた支援 -地域住民の“強み”をつなぐ災害支援共助システムの構築-	美浜町
	松岡 崇暢	まちづくり研究センター	知多半島内における人口増加に向けた地域づくりの成果と影響に関する研究	半田市亀崎中学校区
2017年度 採択:12件	吉村 輝彦	国際福祉開発	食を媒介とした対話や交流の場づくりから始めるコミュニティづくりの実践的研究 -知多市朝倉団地周辺地区を対象に-	知多市
	新美 綾子	看護	知多市・東海市における地域在住災害支援ナースの養成強化とナース間のネットワーク	東海市・知多市
	渡邊 亜紀子	看護	『学生主体活動型地域サロン』開設に関するニーズ調査と基盤づくり	東海市
	平野 隆之	社会福祉	地域包括ケアを支える権利擁護支援システムの研究 -知多地域成年後見センターの事例研究-	半田市、美浜町・東海市・知多市
	梅本 充子	看護	半田市地域高齢者に対するグループ回想法の介護予防および社会参加への有効性	半田市
	野尻 紀恵	社会福祉	美浜町における子どもを対象とした地域福祉拠点づくりに関する研究 -子どもの夜の居場所支援の実践を通して-	美浜町
	渡邊 忍	社会福祉	ファミリーホーム(小規模住居型児童養育事業)の地域支援に関する研究 その2 -グループ支援と個別支援の統合化を目指した包括的支援の実践研究-	美浜町
	高村 秀史	全学教育センター	美浜町における災害発生時の災害支援拠点、避難所生活に向けた支援 -アウトドアのノウハウを生かした体験型『防災・減災キャンププログラム』の構築-	東海市や美浜町を中心とした知多半島全域(5市5町)
	佐藤 大介	全学教育センター	地域包括ケアシステム構築に向けた生活支援コーディネーターの養成	半田市
	原田 正樹	社会福祉	知多半島における「0歳から100歳の地域包括ケア」構築にむけた萌芽的研究	半田市、東海市、美浜町
	曲田 浩和	経済	新田開発地の歴史的資源の活かし方 -川南新田の歴史発見-	東海市
	坂口 大史	健康科	半田市赤レンガ建物と周辺地域を含めた地域活性化まちづくりに関する研究	半田市

研究交流会・報告会の実施

COC研究交流会

住民の視点から具体的な地域課題の解決に取り組む市民研究員と本学の教員による COC 研究交流会を開催しています。交流会では、これまでの研究進捗を報告するとともに、それぞれの視点から情報交換を行っています。

開催実績

- 2017年度COC研究交流会：2017/6/28(東海キャンパス)
- 2016年度COC研究交流会：2016/6/23(東海キャンパス)
- 2015年度COC研究交流会：2015/6/11(東海キャンパス)



2017年度



2015年度

市民研究員・地域課題解決型研究 研究成果合同報告会

市民研究員および本学教員が1年間、地域課題の解決に向けた研究活動に取り組んできた成果を報告する場として「市民研究員・地域課題解決型研究 研究成果合同報告会」を毎年開催しています。

開催実績

- 2016年度研究成果合同報告会：2017/3/5(東海キャンパス)
- 2015年度研究成果合同報告会：2016/2/11(東海キャンパス)



報告会の様子

地域研究プロジェクト報告会

社会福祉学部、経済学部、国際福祉開発学部の学生が履修する科目「地域研究プロジェクト」では、知多半島をはじめとする自治体や地域関係者と連携・協働し、地域振興や、まちづくりにかかわる諸事業を展開しています。「地域研究プロジェクト」は2012年に開講し、以来定期的にその成果や取り組み・実践の報告を行っています。

開催実績

- 2016年度 地域研究PJ報告会：2017/1/26(美浜キャンパス)
他多数



報告会の様子

「研究」領域 中間成果

1. 地域課題解決型研究助成

連携する4市町の地域課題の解決に資する研究として進められている地域課題解決型研究は、応募・採択件数も順調に増加し、当初の予定通りの規模で進められています。

【現段階での到達点・中間成果】

- ◎現段階での到達点としては以下のような点が挙げられます。
 - ・ 地域の問題把握や研究課題の抽出に対して教員の関心が高まったこと
 - ・ 連携市町が抱える地域課題に向き合った研究活動が広がってきたこと
 - ・ 市民や学生を巻き込んだ研究活動のスタイルが広がり、定着してきたこと
 - ・ 研究成果を地域に還元していく機会が増えてきたこと

【今後の課題】

- ◎残りのCOC事業助成期間およびそれ以降の研究制度の発展を考えた時、現時点では以下のような課題があげられます。
 - ・COC事業助成期間終了後の研究制度をどう維持していくか
 - ・ 研究成果を地域に還元していくための機会・しくみ
 - ・ 教員と市民がともに参加するフォーラムなどの定期的な開催

2. 市民研究員制度

市民からの提案に基づいて審査・採択されている市民研究員制度も、応募が順調に増加するとともに、提案されてきた調査研究内容にも幅と厚みが増してきました。

【現段階での到達点・中間成果】

- ◎現段階での到達点としては以下のような点が挙げられます。
 - ・ 市民活動と調査研究との違いが徐々に明確に認識され、研究らしい成果が見えてきたこと
 - ・ 研究の着眼点が課題を身近に感じている市民ならではの着眼点に満ちていること
 - ・ 地道に地域を回るなど、地道な活動が展開されていること
 - ・ 教員との連携が深まってきたこと

【今後の課題】

- ◎市民研究員制度の充実のためには以下のような取り組みが一層必要だと考えます。
 - ・ 市民研究員に対する教員からの研究支援や研究上の連携
 - ・ 市民研究員の活動に関わって学生の活動との接点づくり
 - ・ 市民研究員が研究をさらに発展させるために、財団などの助成団体への研究助成申請に対する支援
 - ・ 市町村が行っている市民活動支援のしくみに対する連携

地域連携推進機構長・国際福祉開発学部 教授

千頭 聡